

戦略的機能イノベーション研究所

Centre for the Research of Emergent functions in Artifacts and Technological Enterprises

研究所の概要

国内の製造業、サービス産業などにおいて、つくり手側の多くの企業が方向性を見失いつつあり、国際競争の中で継続的に発展していくことに不安感を持つ傾向が出てきたことは否定しきれない。しかし、そのための国内企業の活動を中心とする学術的知見の構築に関する議論は薄めであったといわざるを得ない。

本研究所の方向性としては、このような状況の中で有効性があると考えられる、学術的知見に基づく議論を進め、その蓄積に努めていくものである。



所長

吉田 敏

YOSHIDA Satoshi

キーワード

Emergent Function（発生機能）、
設計情報分析、人工物特性の把握
感覚的価値の再現可能性

令和4年度の実施項目

- 設計機能と発生機能の差異に関する考察
- ユーザー活動の設計思想から見た考察
- COVID-19 の影響に拠る国内企業の業務構成要素相互依存性

令和3年度の研究活動内容及び成果

本研究所の具体的な目的は、以下のような視点に基づく学術的知見に基づく議論を進め、そこから得られる知見を集約していくことである。

- ・ 産業別・製品分野別の生産物特性および生産プロセス特性
- ・ 国内の企業のつくり手としての強みや弱み
- ・ 製品による価値創造および価値獲得
- ・ サービスによる価値創造および価値獲得
- ・ ソリューションによる価値創造および価値獲得

これらにより、国内の特定の産業に関する理解だけでなく、国際間比較、産業間比較による、より広い対象に対して視点を絞った議論を整理していくことを目指すものである。

これらの議論の整理によって、これまで明確にできなかった、人間がモノを創造する流れの全容を明示していくことができる可能性を向上させると考えている。

特に、本研究所の独自性として、これらの議論に必要不可欠と考えられる、理論面と感性面の両面から考えていくことを試みる。つまり、論理的・客観的な価値創造に関する議論に加え、一般化が可能とな

るような再現性が含まれる感性的・主観的な価値創造の議論も積極的に進めていく。これにより、人間が行っている行為や思考としての創造活動を、ありのままの形で理解していく可能性を向上させるものと考えている。

このような考え方にに基づき、令和3年度について、以下のような成果が得られた。(以下、査読論文のみ掲載)

- ① 機能から見た建築に求められる内容に関する一考察
(設計機能と発生機能の差異の抽出に関する試考)

吉田 敏

設計工学

発行日: 2022 年

DOI <https://doi.org/10.14953/jjsde.2021.2944>

- ② 建築に対するユーザーの活動の設計思想から見た要求の把握手法の開発
—COVID-19 の影響に拠るテレワークの傾向と業務構成要素相互依存性についての考察—

吉田 敏, 藤田 大樹

日本建築学会計画系論文集

2021 年 86 卷 785 号 1960-1968

DOI <https://doi.org/10.3130/aija.86.1960>

- ③ Characteristics of Project Organisations of the Japanese Construction Industry Focusing on the Modularity of Components

Satoshi Yoshida*

Front. Built Environ., 08 March 2022 |

DOI: <https://doi.org/10.3389/fbuil.2021.591035>